

# 第10期 株主通信

平成19年11月1日～平成20年10月31日



トップメッセージ .....	1
ファースト住建のビジネスモデル .....	5
TOPICS&ファースト住建からのお知らせ .....	6
財務諸表 .....	7
会社情報 .....	9
株式情報 .....	10

## 景気の急速な減速による住宅需要の冷え込みや販売価格の低下などから減収減益となりました。

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当社に対しまして、格別のご理解とご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社第10期(平成19年11月1日～平成20年10月31日)を終了しましたので、業績と今後の見通しなどにつきましてご報告いたします。



**Q** 当期の取り組みと業績について教えてください。

**A** 財務の健全性確保を重要課題として取り組みました。

当社は戸建分譲事業を主要な事業とし、マンション分譲等事業、請負工事事業及びその他事業を展開しています。当事業年度の売上高で98%以上を占める戸建分譲事業は、住宅を初めて取得される若い世代にも安心して住んでいただける低価格の戸建住宅の分譲が中心です。価格を抑えるために、設計・施工・販売を業務委託しており、分譲用地の仕入れを含めた商品企画に経営資源を集中させています。

当事業年度におけるわが国経済は、原油価格や素材価格が高騰した一方で、米国のサブプライムローン問題に端を発した金融危機が世界的に広がったことから景気は大きく減速し始めました。

当社が属する不動産業界では、これまで不動産投資の主力となっていた投資ファンド資金が大幅に縮小したことや需要の冷え込みから、地価は低下傾向となりました。そのため地価が下落する以前に仕入れた用地は、販売価格への転嫁ができず利益率低減の要因となりました。また住宅需要は、景気の先行きに対する不安感から低迷し、マンションを含めて完成在庫が増加しました。分譲用地の仕入価格は低下したものの、その低減効果を打ち消す水準で販売価格の低下が進んだため、適正価格での用地仕入れが難しい状況が続きました。

このような厳しい事業環境の中で、当社は当事業年度においては、財政状態の健全性確保を最重要課題に置き、販売環境の変

化や事業拡大の結果として増加傾向にあった完成在庫数を適正水準まで下げることに努めました。この結果、完成在庫は前事業年度末に比べて19億52百万円(前事業年度末比20%減)減少しました。また、用地仕入れ後、速やかに着工できる小規模案件や、宅地造成が不要な案件の仕入れに注力しました。こうした一方、間取りや仕様の見直しによる建築費用の低減、用地仕入れ時における市場調査の厳格化などに取り組み、収益性の向上を図りました。

しかしながら、不動産相場や建築資材価格が上昇する局面で仕入れて建築した在庫を、市場環境が大きく変化した局面で販売せざるを得なかったことによって、収益性は低下し業績に大きく影響しました。

事業分野別では、戸建分譲事業では、住宅需要が冷え込んだこと、低下傾向にある住宅販売価格に見合った価格で分譲用地を仕入れることが困難であったことなどから、販売棟数は1,353棟と前事業年度に比べて359棟(前事業年度比21.0%減)減少しました。また販売価格が低下したことから、売上高は344億95百万円(同25.0%減)でした。

マンション分譲等事業は、中古マンションを1戸単位で仕入れ、内装リフォーム工事を施した後で販売する事業を展開していますが、当事業年度の販売戸数は21戸(同90.9%増)、売上高は4億16百万円(同82.7%増)でした。

請負工事事業及びその他事業における売上高は、それぞれ45百万円(同48.6%減)、1億37百万円(同22.0%減)でした。

以上の結果、当事業年度における業績は、売上高は350億94百万円(同24.5%減)、経常利益7億21百万円(同78.9%減)、当期純利益54百万円(同97.3%減)でした。

## Q 事業拠点の拡大は進みましたか？

### A 近畿圏以外の地域への出店準備を進めました。

当社は、兵庫県、大阪府、京都府、奈良県、和歌山県及び滋賀県を主な営業地域とし、当事業年度は近畿圏16拠点体制で地域に密着した事業を推進しています。

当社は、新たな地域への支店開設によって拡大を図る事業戦略を推進しており、当事業年度は近畿圏以外の地域への進出を準備しました。この一步として中部圏での出店を進め、平成20年12月、名古屋市名東区に名古屋支店を開設しました。(P6に詳細を掲載しています)

## Q 住宅の安全性確保の取り組みの進捗は？

### A 売主としての責任を全うし、再発防止に努めます。

当社は、住宅の設計業務についても、外部の設計事務所に委託するビジネスモデルを採用しています。すでに平成19年7月27日並びに平成20年1月29日に公表したように、これまで当社が販売した2階建て戸建住宅の一部に、設計上の誤りから、建物の壁量が建築基準法の定める基準を満たしていない物件があることが判明しました。

当社は売主としての<sup>かし</sup>瑕疵担保責任を全うするために、当該物件に対して補修工事を実施するとともに、建物の安全性を確認するため必要に応じて現地調査などを実施しました。補修工事の実施

費用及び今後予想される当該費用については、見積り可能な範囲で当事業年度に計上しています。

当社は再発防止策として、2階建て戸建分譲住宅の安全性を確保する体制を強化するとともに、設計事務所による壁量計算を自社でも再チェックする体制としました。同時に、当社が施工・販売する2階建て戸建住宅の壁量について、建築基準法の基準に対して1.3倍とする社内基準を設け、一層の品質向上をめざしています。

Q

配当について教えてください。

A

1株当たり16円の年間配当としました。

当社は、企業価値を高めることによって、株主の皆様にも長期的に貢献できる企業をめざしています。配当政策においては、内部留

保金や業績なども勘案した上で、安定した利益還元を念頭に置き、配当性向10%を目標としています。

また当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を基本方針とし、取締役会の決議をもって剰余金の配当等ができることを定款に定めています。

平成20年10月期の配当金につきましては、1株当たり年間16円（うち中間配当金10円）としました。当事業年度の配当金総額は当期純利益額を上回り、また配当性向は494.6%となりますが、配当方針並びに財政状態を総合的に勘案して決定しています。

次期の配当につきましては、厳しい事業環境と業績見通しを鑑み、年間配当金額は1株当たり6円（うち中間配当金3円）とする予定です。

## 業績サマリー

科 目	第8期 (平成18年10月期)	第9期 (平成19年10月期)	第10期 (平成20年10月期)	第11期予測 (平成21年10月期)
売上高	(百万円) 43,258	46,497	<b>35,094</b>	33,000
経常利益	(百万円) 4,406	3,419	<b>721</b>	620
売上高経常利益率	(%) 10.2	7.4	<b>2.1</b>	1.9
当期純利益	(百万円) 2,607	2,022	<b>54</b>	200
総資産	(百万円) 30,293	28,790	<b>24,193</b>	—
純資産	(百万円) 11,919	13,604	<b>13,286</b>	—
自己資本比率	(%) 39.3	47.3	<b>54.9</b>	—
一株当たり当期純利益	(円) 154.2	119.6	<b>3.2</b>	11.8

**Q** 次期の見通しを教えてください。

**A** 厳しい事業環境が続く中、  
収益性の回復をめざします。

今後の世界経済は、原油価格などの下落による一定の効果が期待されるものの、世界的な金融危機の深刻化や景気の一層の下振れ懸念、株式や為替の大幅な変動などから景気はさらに厳しくなることが予想されます。

不動産業界においても景気減速が強まり、雇用情勢の悪化が進んだ場合、住宅需要の低迷による完成在庫の増加、販売価格が下がることによる収益率の低下などが懸念されます。不動産市場は需要を反映して、当面下落することが予想され、販売環境の厳しさが一層強まる中で、購買意欲を喚起するためには、住宅価格の適正化が重要となります。

#### 戸建分譲事業の地域別販売実績(当期)

	件数	前年同期比 (%)	金額 (千円)	前年同期比 (%)
滋賀県	29	△57.4	741,039	△55.0
京都府	31	△60.8	893,395	△57.7
大阪府	446	△11.9	12,494,472	△18.5
兵庫県	670	△17.9	16,070,934	△22.7
奈良県	177	△27.2	4,295,768	△29.8
戸建分譲事業計	<b>1,353</b>	<b>△21.0</b>	<b>34,495,610</b>	<b>△25.0</b>

当社としましては、在庫水準の適正化によって資金効率を高め、不動産相場の下落リスクによる収益性の低下を防ぎ、収益性の回復をめざす考えです。

このため、まず、地価が高い時期に用地を仕入れたために不採算となっている完成在庫の販売を、引き続き優先課題として進めます。また分譲用地の仕入れにあたっては、慎重な市場動向の予測に基づき早期に販売可能な価格を設定するとともに、より短期間で着工できる完成宅地や小規模案件など事業サイクルが短い案件に注力します。しかしながら、現在の市場環境においては、顧客ニーズに即した価格での分譲用地の仕入れは、依然として難しい状況にあると認識しています。

収益性の回復の面では、住宅需要の減少を受けて建築資材価格が落ち着きつつあります。建築コストについては、こうした低減効果が次第に見込めるものと想定していますが、さらに間取りなどのプランを標準化していくことで建築コストの低減を進める考えです。

次期の業績につきましては、売上高330億円(前事業年度比6.0%減)、営業利益7億50百万円(同8.4%減)、経常利益6億20百万円(同14.1%減)、当期純利益2億円(同265.9%増)を見込んでいます。

当社は、今後とも全社一丸となって事業に取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **島 雄司**

# 安心・低価格の住宅を実現するための独自ビジネスモデル

より安心で、より低価格の住まいをお客様に提供したい——

その思いから生まれた、ファースト住建の強みとアウトソース体制をご紹介します。

### アウトソース先の管理と品質保証

#### 設計事務所

##### 法定の1.3倍の基準を定め、設計段階から住宅の安全性を確保

機能や安全性、構造的な問題、法規制、美観、隣接地との関係、住宅性能保証制度への対応など、さまざまなポイントについて当社が厳密にチェックしながら、設計業務を建築設計の専門家に委託しています。特に壁量計算については、当社設計課ですべて再チェックしています。なお、当社では強度不足の再発を防ぐために、現在、建物の必要壁量を建築基準法が定める基準値の1.3倍とし、安全性の一層の確保を図っています。

#### 工務店など

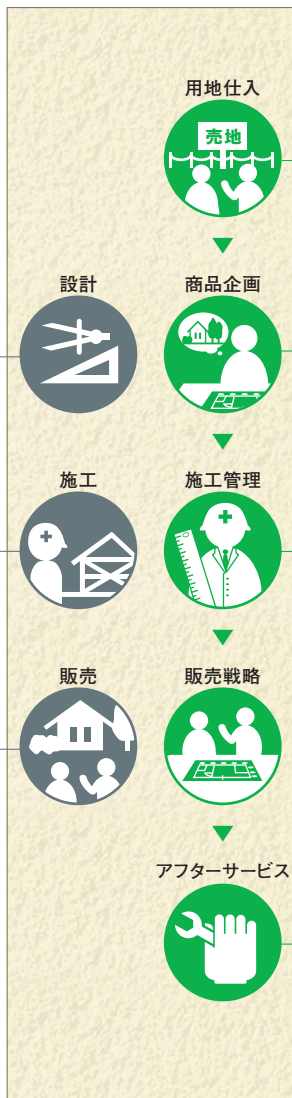
##### 工事管理者を増員し、より高品質な住宅の提供をめざす

1棟ごとに専任監督制を導入しています。そして工事分野ごとに専門業者に分離発注して施工し、厳格な検査を経てお届けする体制としています。品質を標準化するため、工場で材料を加工するプレカスト技術を採用するなど仕様の標準化を推進。品質をさらに高めるために、工事管理に関わる人員の増員を図っています。

#### 不動産会社

##### 相互信頼をベースに、連携体制を強化

多様な販売活動を展開し、また広告費や人件費を抑えて経営資源を商品企画に集中させるために、幅広い不動産会社と提携した販売形態を採用しています。不動産会社との連携を強化し、お客様のニーズ把握に努めています。



### ファースト住建の「強み」

#### 高度な用地仕入能力

地域に密着した不動産ネットワークから日常的に情報を収集。土地の形状や造成状態、隣接地や周辺地域との関係などが良好と判断される安心・安全な用地の確保に努め、価格価値の高い土地をご用意します。

#### お客様ニーズに応える商品企画力

外観、間取り、床や壁のカラー・材質、設備機器など、時代やライフスタイルとともに変化するさまざまな要素を敏感に商品企画に反映。お客様一人ひとりに満足いただける高品質な住まいのご提供こそ当社の大きな強みです。

#### 独自の品質管理システム

工程管理、品質管理、コスト管理、安全管理など、幅広い知識と技術を持った専任担当者が、施工からメンテナンスまで全工程を厳密に管理。独自の品質管理システムに基づき、住まいの質と安全性の確保を図っています。

#### 充実のアフターケア

定期点検を引渡日から2年後に実施。修理などが必要な場合はきめ細かく対応します。

また引渡後すぐに実施するアンケートによって、迅速なフォローを実行するとともに、ご意見を商品企画に反映させています。

## TOPICS 近畿圏以外で初の名古屋支店を開設

当社はこれまで近畿2府4県に16拠点を設けて事業を展開してきましたが、近畿圏以外の新たな事業エリアへの進出を検討してきました。その結果、近畿に隣接する中部圏の中核都市・名古屋市への拠点開設を決定し、開設準備を進めてきました。

そして、平成20年12月1日、名古屋市名東区に名古屋支店をオープンさせ、事業活動を開始しました。

名古屋支店を置く名東区は、名古屋屈指のベッドタウンとして発展を続け、現在の区の人口は約16万人、約7万世帯で構成されています。当社は、この名古屋支店を拠点に、まず名古屋市周辺での事業開拓に邁進する計画です。

### 名古屋支店

〒465-0093  
名古屋市名東区一社2丁目106番  
TEL: 052-709-5755  
FAX: 052-709-5756

<最寄駅: 地下鉄東山線 一社駅から徒歩5分>



### ファースト住建からのお知らせ

## 2階建て戸建住宅における強度不足に関するお詫びと対応

当社では、強度不足が判明した物件にお住まいのお客様に深くお詫び申し上げるとともに、安全を第一に考え、該当する全ての物件に対して、直ちに補修対応を開始いたしました。

当社では今回の事態を受け、再発防止のため、またより一層、建物強度を高め安全性を確保するために、管理体制のさらなる強化に努めております。

この一環として、必要壁量を基準値の1.3倍にするるとともに、これまで外部の設計事務所に委託してきました壁量計算に

つきましても、全て自社で再チェックすることといたしました。

さらに、現場での品質向上をより充実させるために人員を増員して工事管理体制の見直しを図っております。

壁量不足の物件が判明したことにつきまして、お客様はもちろん、株主様はじめ関係各位には、多大なるご心配とご迷惑をおかけしたことを重ねて深くお詫び申し上げます。次第です。

今後、当社では、お客様に安心して、快適にお住まいいただける住宅をご提供できるよう、さらなる安全性の確保と品質の向上に全力で取り組んでまいります。

## 貸借対照表

(単位：千円)

科 目	当 期 平成20年10月31日現在	前 期 平成19年10月31日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>23,233,806</b>	<b>27,925,476</b>
現金及び預金	8,203,533	8,760,041
売掛金	794	835
<b>1</b> たな卸資産	14,685,734	18,799,605
前渡金	117,420	188,093
繰延税金資産	194,786	138,169
その他	31,536	38,730
<b>固定資産</b>	<b>960,128</b>	<b>865,186</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>865,178</b>	<b>737,719</b>
建物	153,568	141,591
構築物	6,038	6,038
車両運搬具	97,231	88,848
工具器具備品	96,632	95,008
減価償却累計額	△ 191,035	△ 154,363
土地	702,742	560,596
<b>無形固定資産</b>	<b>41,457</b>	<b>35,161</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>53,492</b>	<b>92,305</b>
投資有価証券	0	40,000
繰延税金資産	17,551	11,993
その他	35,941	40,311
<b>資産合計</b>	<b>24,193,935</b>	<b>28,790,662</b>

(注)記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しています。

### CHECK POINT 1 たな卸資産

たな卸資産は、前期末に比べ41億13百万円減少しました。また、当期末のたな卸資産のうち、販売用不動産は77億96百万円(前期末97億48百万円)、仕掛販売用不動産は58億59百万円(同79億24百万円)、未成工事支出金は10億25百万円(同11億24百万円)です。

科 目	当 期 平成20年10月31日現在	前 期 平成19年10月31日現在
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>10,516,205</b>	<b>15,155,109</b>
支払手形	314,480	444,520
支払信託	1,490,640	1,889,710
工事未払金	1,774,197	2,150,352
<b>2</b> 短期借入金	6,151,000	9,585,000
<b>2</b> 1年以内に返済予定の長期借入金	100,400	—
未払法人税等	17,425	533,000
前受金	94,709	125,928
役員賞与引当金	3,600	17,900
その他	569,752	408,698
<b>固定負債</b>	<b>390,810</b>	<b>31,505</b>
<b>2</b> 長期借入金	347,700	—
退職給付引当金	43,110	31,505
<b>負債合計</b>	<b>10,907,015</b>	<b>15,186,614</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>13,286,919</b>	<b>13,604,047</b>
資本金	1,584,000	1,584,000
資本剰余金	1,338,350	1,338,350
利益剰余金	10,365,244	10,682,372
自己株式	△ 674	△ 674
<b>3</b> 純資産合計	<b>13,286,919</b>	<b>13,604,047</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>24,193,935</b>	<b>28,790,662</b>

### CHECK POINT 2 短期借入金・長期借入金

短期借入金及び長期借入金の合計は65億99百万円となり、有利子負債は前期末に比べて29億85百万円減少しました。

### CHECK POINT 3 純資産合計

当期末の自己資本比率は、負債の圧縮が進んだことによって54.9%となり、前期末に比べて7.6ポイント上昇しました。

## 損益計算書

(単位：千円)

科 目	当 期	前 期
	平成19年11月1日から 平成20年10月31日まで	平成18年11月1日から 平成19年10月31日まで
<b>4</b> 売上高	<b>35,094,002</b>	<b>46,497,357</b>
売上原価	32,044,244	40,278,082
売上総利益	<b>3,049,758</b>	<b>6,219,274</b>
販売費及び一般管理費	2,230,874	2,728,426
営業利益	<b>818,883</b>	<b>3,490,848</b>
営業外収益	23,186	32,741
営業外費用	120,189	103,959
経常利益	<b>721,880</b>	<b>3,419,629</b>
特別利益	4,810	50,800
<b>5</b> 特別損失	580,606	—
税引前当期純利益	<b>146,084</b>	<b>3,470,429</b>
法人税、住民税及び事業税	153,595	1,409,364
過年度法人税等	—	33,456
法人税等調整額	△ 62,175	4,888
当期純利益	<b>54,663</b>	<b>2,022,720</b>

(注)記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しています。

## キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	当 期	前 期
	平成19年11月1日から 平成20年10月31日まで	平成18年11月1日から 平成19年10月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	<b>3,004,474</b>	<b>3,471,718</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ <b>1,804,420</b>	△ <b>62,105</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ <b>3,356,561</b>	△ <b>2,307,912</b>
現金及び現金同等物の増減額	△ <b>2,156,507</b>	<b>1,101,700</b>
現金及び現金同等物の期首残高	<b>8,760,041</b>	<b>7,658,340</b>
現金及び現金同等物の期末残高	<b>6,603,533</b>	<b>8,760,041</b>

(注)記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しています。

## 株主資本等変動計算書 当期 平成19年11月1日から平成20年10月31日まで

(単位：千円)

	株主資本							自己株式	株主資本 合計	純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金						
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計				
平成19年10月31日残高	<b>1,584,000</b>	<b>1,338,350</b>	<b>1,338,350</b>	<b>5,400</b>	<b>10,676,972</b>	<b>10,682,372</b>	△ <b>674</b>	<b>13,604,047</b>	<b>13,604,047</b>	
当期中変動額	—	—	—	—	△ 202,795	△ 202,795	—	△ 202,795	△ 202,795	
剰余金の配当	—	—	—	—	△ 168,996	△ 168,996	—	△ 168,996	△ 168,996	
剰余金の配当(中間配当額)	—	—	—	—	54,663	54,663	—	54,663	54,663	
当期純利益	—	—	—	—	△ <b>317,128</b>	△ <b>317,128</b>	—	△ <b>317,128</b>	△ <b>317,128</b>	
当期中変動額合計	—	—	—	—	△ <b>317,128</b>	△ <b>317,128</b>	—	△ <b>317,128</b>	△ <b>317,128</b>	
平成20年10月31日残高	<b>1,584,000</b>	<b>1,338,350</b>	<b>1,338,350</b>	<b>5,400</b>	<b>10,359,844</b>	<b>10,365,244</b>	△ <b>674</b>	<b>13,286,919</b>	<b>13,286,919</b>	

(注)記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しています。

### CHECK POINT 4 売上高

当期における売上高は、不動産市場における需要の冷え込みから、前期に比べ24.5%減少しました。売上高の98.3%は、戸建分譲事業の売上です。

### CHECK POINT 5 特別損失

当期に計上した特別損失の内訳は、完成工事補償損1億40百万円、完成工事補償引当金繰入額2億83百万円、販売用不動産評価損1億16百万円、投資有価証券評価損39百万円です。

## 会社概要

設立	平成11年7月6日
資本金	15億8,400万円
本社所在地	兵庫県尼崎市東難波町5-6-9 TEL:06-4868-5388 FAX:06-4868-5069
主な事業内容	建築工事設計、施工並びにコンサルティング、 不動産売買、仲介、斡旋、賃貸並びに管理
主要取引銀行	三井住友銀行 神戸営業部 三菱東京UFJ銀行 神戸中央支店 四国銀行 尼崎支店 みずほ銀行 神戸支店

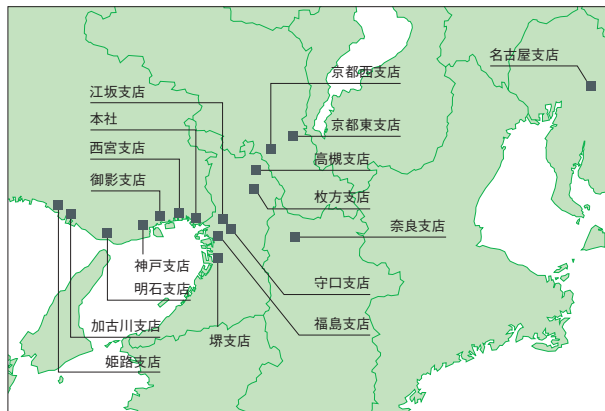
## 役員一覧

代表取締役社長	中島雄司
取締役	牛島慎吾
取締役	伊木雅則
取締役	松宮巧
常勤監査役	藤本智章
監査役	田村一美
監査役	水永誠二

## 支店

- 加古川支店 兵庫県加古川市西神吉町岸
- 御影支店 神戸市東灘区御影石町
- 江坂支店 大阪府吹田市江の木町
- 西宮支店 兵庫県西宮市田中町
- 福島支店 大阪市福島区玉川
- 明石支店 兵庫県明石市相生町
- 神戸支店 神戸市中央区楠町
- 高槻支店 大阪府高槻市紺屋町
- 守口支店 大阪府守口市大枝南町
- 堺支店 堺市堺区五月町
- 京都西支店 京都府向日市上植野町吉備寺
- 京都東支店 京都市山科区音羽西林

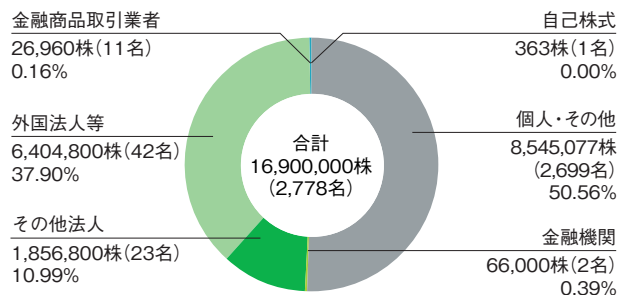
- 枚方支店 大阪府枚方市岡東町
- 姫路支店 兵庫県姫路市南条
- 奈良支店 奈良県奈良市大宮町
- 名古屋支店 名古屋市名東区一社（平成20年12月開設）



## 株式の状況

発行可能株式総数	67,600,000株
発行済株式の総数	16,900,000株
株主数	2,778名

## 所有者別株式数分布



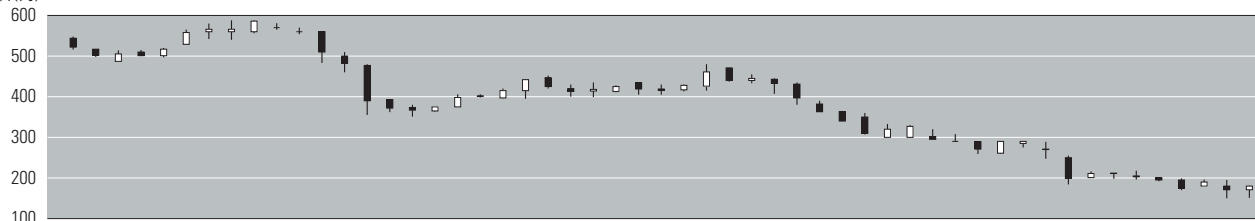
## 大株主

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
中島 雄司	5,119,000	30.29
ビービーエイチオープンハイマークエスト インターナショナルバリューフアンドインク	2,191,000	12.96
伏見管理サービス株式会社	1,800,000	10.65
ノーザントラストカンパニーエイブイエフシー サブアカウントアメリカンクライアント	957,700	5.67
ゴールドマンサックスインターナショナル	825,800	4.89
ジェービーエムシービーオムニバス ユーエスベンシヨントリーティージャスデック380052	465,400	2.75
ビービーエイチオープンハイマー インターナショナルバリューフアンド	415,800	2.46
五十嵐 幸造	312,000	1.85
ビービーエイチフォーフィデリティロー プライスストックファンド	305,000	1.80
牛島 慎吾	300,000	1.78
合計	12,691,700	75.10

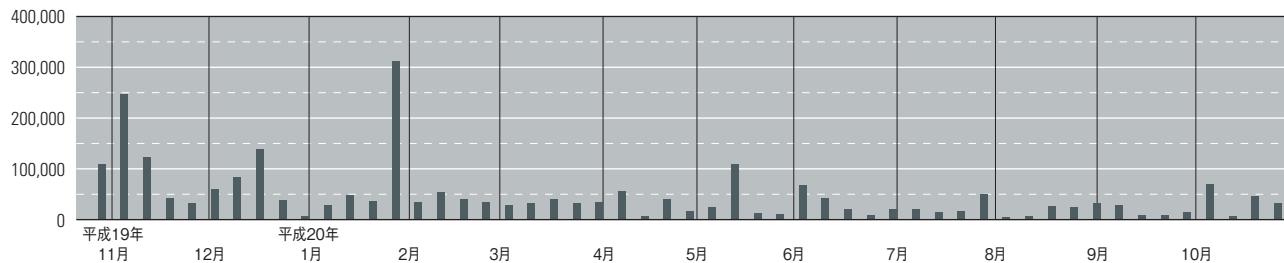
(注)発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数点以下第3位を四捨五入して表示しています。

## 株価の推移

株価(円)



出来高(株)



## 株式会社のご案内

決 算 期 10月31日

定 時 株 主 総 会 1月下旬

基 準 日 定時株主総会 10月31日  
期末配当金 10月31日  
中間配当金 4月30日(中間配当を行う場合)  
(その他必要がある時はあらかじめ公告して定めます。)

株 主 名 簿 管 理 人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

同 事 務 取 扱 場 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
(お 問 合 わ せ 先) 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号(大阪三菱ビル)  
TEL(通話料無料):0120-094-777

単 元 株 式 数 100株

公 告 方 法 電子公告  
<http://www.f-juken.co.jp/>

※事故その他やむを得ない事由により電子公告による  
公告することが出来ない場合は、日本経済新聞に掲載します。

上 場 証 券 取 引 所 大阪証券取引所市場第二部

ウェブサイトでも当社の情報を開示しています。  
<http://www.f-juken.co.jp/>



### 見通しに関する免責事項

当報告書の記載内容のうち、歴史的事実ではないものは将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見通しとは異なる場合がございます。



大豆油インキを使用しています。